

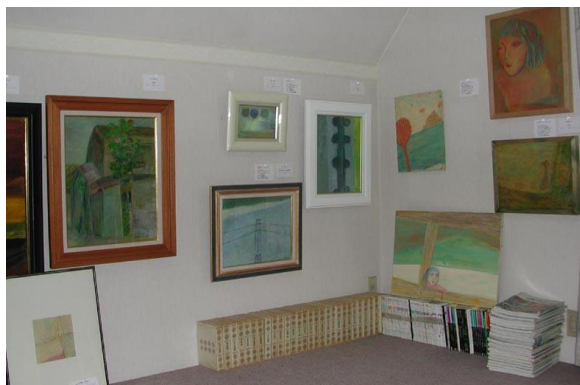
2000年の秋に開館

柏わたくし美術館

自分の目で収集した三百点を展示



↑ 館長の堀良慶さん。温和な、丁寧な人である。質問にゆったりと応じてくれる。帰るときの挨拶に仏教を感じさせるものがある ↓ 所狭しと展示された絵&絵。



柏わたくし美術館は、柏市若柴一―三五八。柏駅西口前バス若柴循環、入谷津下車五分、北へホテルハイランドの十五メートル先を右折し、四十メートル先の右。日、月、火、水の午後開館。念のため電話予約のこと。
〇四七一一三四―八二九三

ガイド

所蔵の絵を一度に見ることは出来ない。展示するのは百点程度が限度だし、特別展も多い。

特別展も多い

画家の思いが絵となって、掲げられている。語りかけてくるものがある。その語りかけてくるものは、実は三百点の絵を収集した堀良慶館長ご自身ではないかと思えてくる。柏市若柴にある「柏わたくし美術館」の絵は、すべて堀さんが個人の感性で蒐集されたものだから、来館者は絵を通して堀さんご自身を「鑑賞」することになる。

二〇〇〇年の秋に開館、それを納得している美術ファンが集まっているから「わたくし」美術館は着実な文化発信地となっている。

それでは行ってみてください。企画される特別展も、堀さんの感性が選択したものである。それこそ「わたくし美術館」の存在価値と考える。



すがすがしい女性像」と、館長が自慢する仲田菊代「帽子の女」

堀良慶さんは、弱肉強食という市場経済のど真ん中に身をおいてきた。そこで職分を全うしてきた。その半面、絵という孤独な世界が心の拠り所になっていて、三十歳の中ごろ、やつとピカソの道化師の絵のよさ、それを描いたピカソの気持ちも分かり、目が開かれたという。中学生のとき、ピカソ好きの絵の教師に自分の絵をけなされ、画家志望が頓挫した記憶が、強く残っていたのである。

ゴルフやマージャンもやめ、三回に一回は付き合いも断り、絵の収集を始める。絵と仏教という精神世界が深まる。収集した絵はかなりの数になっていた。家族の応援もあり、それを展示する美術館をオープンさせた。

美術館を開くことなど念頭にはなかったという。しかし、三百点、デッサンなどを含めると千点という膨大さには驚く。八室ほどに二、三段に展示され、階段やトイレまで埋め尽くされている。高名な画家はなく、堀さんの個性が選り出した作品ばかりである。

末広クラブ・逆井漫步64